

## OB紹介



政府系金融機関  
Y. Tさん  
(平成12年度学部入学)

※本人の希望により、本名、顔写真、  
職場の正式名称は伏せています。

「お仕事について教えてください。」

一言でいうと、中小企業への融資業務です。具体的にいうと、まずお客さんである中小企業に会い、その会社の事業内容・経営状況等の説明を受け、融資の必要性や妥当性、政策性等を総合的に判断

し、融資の可否判断及び実行等を行っています。

政府系金融機関ということで、融資の対象となり得る企業の条件が、民間金融機関とはいくつか異なります。主な条件としては、中小企業基本法で定義されている中小企業者であること、パチンコ店などの風営法にかかる業種や保険業、貸金業等の金融業以外の事業者であること等です。

ここで「融資」について簡単に説明すると、ある金額（元金といいます）をある期間に渡って貸し出して、「元金」にかかる「利息」を貸出期間中に受け取ることで、それがいわゆる「売上」になります。取引先の会社からは、決算の時などに、経営状況の報告等を適宜うけることでモニタリングを続けています。また、融資をして終わりではなく、完済して頂くまで、きめ細かく情報収集していくことが求められます。また、融資期間

中に再度申込みを受けたり、融資提案を行ったりすることもあります。

私が勤める機関の特徴を2つご紹介します。一つは、預金業務を行っていないことです。預金業務とは、法人も含む一般の人たちからお金を集めて、それを運用して、その運用益の一部を利子という形で預金者に還元することです。この運用益と還元利子の差額である、利ざやが儲けの一つになるわけですが、当機関の場合はそもそも預金業務をやっていないません。当機関では、融資を行う為の原資であるお金は、国から財政投融資（※1）等のかたちで借りています。融資業務にかかる利ざやが収入のほとんどであり、人件費等の必要経費分や引当金繰入額（※2）等を収入が下回れば赤字、上回れば黒字、そういう収支構造になっています。もう一つの特徴は、長期融資を専門にしていることです。「民間金融機関が取りにくいリスクをとり、中小企業

者の成長発展を支える」という基本方針のもと、ときには二十年という長期に及ぶ融資を政策的に行うことができるのは当機関の大きな特徴です。

最後に言っておくと、当機関の職員は公務員ではありません。しかし、公務員と同じく高い倫理性・規範性等を求められる「準公務員」という扱いになります。

※1…国が政策目的を推進するために、

財政政策の一環として行う投資および融資。社会資本整備や政策金融などの分野に投入される。毎年度、財政投融资計画にまとめられる。財政融資資金・産業投資特別会計・政府保証債および政府保証借入金を原資として、特別会計・政府金融機関・独立行政法人・特殊会社・地方公共団体などが運用対象になっている。また、財政融資資金による国債引き受けも財政投融资に含まれる。(デジタル大辞泉より)

※2…企業会計で、将来の特定の費用ま

たは損失の発生を合理的に見積もることができるときに、当期の費用または損失として計上する貸方項目の金額。

賞与引当金・退職給与引当金・修繕引当金など。(デジタル大辞泉より、原文ママ)

### 「そのお仕事を選んだ理由は？」

非常に若い段階から、中小企業の百戦錬磨の社長さん達と話す機会が多い、と考えたからです。金融機関の職員であれば、いずれはいわゆる「涉外」業務を経験する人は多いと思いますが、当機関では、顧客と直接対話できる機会が入社一年目からあります。民間では普通、まず預金業務をやったあとに審査業務、さらにもう一業務経験を積んで、ようやくお客さんとお金の話ができる涉外業務を経験する、というルールを歩んでいる人が

多いのではないでしょうか。例えば、二十三歳で大学を卒業して、社長さんと膝をつきあわせて話ができるようになるのは、三十歳前後ぐらいというのも珍しくないと思います。当機関では、早くからそういったことができることが魅力のひとつだと思います。

私が、なぜ若いうちから社長達と直に関わっていきたくと思ったかという点、非常に流動的なこの世の中で、自分がどこに行っても通用する素養を身につける必要がある、と感じていたからです。ビジネスパーソンとして社会の中核に身をおく社長達から、経験・ものの考え方や見方など、色々な話を聴くことはその最短距離だと考えたからです。実際、入ってみて社長から話を聴くのはやはり非常にためになる、と感じました。また、話を聴くだけでなく、こちらから提案を行うなど、能動的な働きかけも勿論おもしろいです。

もう一つの動機に、そもそも金融という業界に絶対身をおきたかった、というのがあります。それは「お金」の動きに精通するということは、経済社会の中を生き抜くための大きなアドバンテージだと考えたからです。

他には、入った後での待遇とか福利厚生だとか、そういう諸条件においても、同業他社と比較して考えました。実を言うと、メガバンクや地方銀行、信用金庫などは、最初から考えていなかったんですよ。受けてすらいらないし（笑）。

他には、証券会社を受けました。直接金融と間接金融という違いはあるけれど、入社後すぐに経営者と直接話ができる機会があると思いましたから。

### 「その仕事を志望する学生が今からできる準備はありますか？」

どこの業界でも、内定は特定の学生に集中する傾向にあると思います。例えば「あなたは学生時代に何をやっていましたか」という質問はどの会社の面接でも聞かれますが、この質問の意図は、現時点でスペシアルな技能を身につけているか否かを聞きたいということではなくて、スペシアルな技能をいざ身につける必要がでてきたときに、それを身につけるために努力できる資質があるかどうか、を見ているわけです。そのときの答え方、応答内容は基本的には学生個々人の固有の回答となるわけで、受け取る企業側もおそらく、基準が大きく異なるということはないと思います。そして企業が目にかなう学生というのは、「毎日あなたは何をしていましたか」という問いに対して、打ち込んだものについて、自

信をもって語れる人のことをいうのは、と私は思います。大学生時代は、日々のほんとしてしまいがちだけど、のほんとなるのを可能な限り防ぐために、一生懸命何でもいから何かに打ち込む……サークルでもいいし、バイトでもいい。もちろん勉強が一番いいと思いますが。

それに加えて、コミュニケーション力。これも凄く重要です。同じ経験をしていても、その同じ経験をどれだけ熱く相手に伝わるように語れるか、これはコミュニケーション力の差で違ってくると思います。また、コミュニケーション力というのは、何もしゃべることだけじゃなくて、聞くことも含まれる。人が話しているときに、どれだけ相手に気持ち良く話させるか、聴く姿勢によって、話す方は話す量、内容、話し方のすべてが変わってきます。そういうのも含めて、コミュニケーション力というのはすごく重要

です。内定が「集中する」というのは、前述の2つを兼ね備えた学生が実はあまりいないからだ、私は考えています。

金融に進みたい人であるならば、簿記等の会計知識等については、学生時代にある程度学んでいるのにこしたことはないと思いますけど、絶対やっておく必要がある、というようなことはないと思います。でも簿記は生きていく上で凄く役に立つから、学んでおくのはいいと思いますけど。また、会計士や税理士、中小企業診断士等の資格の勉強を学生中にする人もいると思いますが、それはbetterであつてもmustじゃないと思います。もちろん、資格取得済であることが就職条件であるような特殊な企業等もあります。しかし、繰り返しになりますが、基本的にはコミュニケーション能力と、学生時代何をしてきたか自信を持って語れること、それらが必須だと思います。それらができる人の中で、更に他の部分で

比較され、内定が出る人と出ない人が分かれていくんじゃないかな。逆にいうと、その2つがないと何かの資格を持つていたとしても、そもそも検討の土台に乗ることさえできない可能性も大きいと思います。

また、年毎に変わるトレンドも無視できません。就職希望学生数と企業の募集学生数によって競争倍率が変化するので、競争が非常に激しい年というのが発生することがあります。厳しい年にあつたら、それはもう受け入れるしかないですね。

余談かつ私見ですが、一つの会社でも、就職がしやすい時期に入社した人達と、就職氷河期といわれる時代に入社した人達では、能力的に違いはあると思います。従って、同じ職場の人が同じような能力を持っている、とは一概に言い切れないと思いますね。

### 「総合科学部で良かったことを 教えてください！」

学部の名前だけ聞くと、総合科学部って何を専攻する学部なのかを、まわりからよく聞かれます。その質問に対しては、総合と称するだけあつて、何でもできる、と答えることが多いですね。たとえば他の学部の授業をすべて聞きに行ける。専門が一つに捉われないということ、総合科学部最大の特徴だと思います。私は文学部や生物生産学部の授業をよく受けに行きました。金融志望のくせに経済学部の授業はあまり行かなかつたんですけどね（笑）。また総合科学部自体にも、変わった授業が多い。私は地域科学プログラム（現・地域文化プログラム）でしたから、文化人類学などから受けたインパクトは今でも忘れられないですね。また、プログラムの違う授業にもたくさん出ていました。



## 「どんな学生生活を 送っていましたか？」

バイト中心の生活でしたね。塾や家庭教師、ピザの配達、パチンコ屋の店員、中華料理屋でご飯を作るなど……一度の掛け持ちは最大3つまでで、常時2つくらいしていました。だからサークル活動はしていません。バイト選びには全部目的があつて、お金のみが目的なのは家庭教師ぐらい。あとは全部、その時その時の目的がありました。例えばピザ屋だったら、その配達エリアの地図を体に覚えこませようとか。でも、すぐ覚えちゃったからすぐ辞めちゃいました（笑）。中華料理屋で働いたのは、包丁使いを覚えたくて始めたんですが、これもある程度自分の中で覚えた、つて思ったらすぐに辞めました。自宅から通っていたわけではないから、生活費を中心に、必要最低限のお金を稼ぐ必要がありました。もう

ちよつとお金に余裕があれば、もっと勉強がしたかったですね。どちらかというとサークル活動よりも、勉強がしたかったです。

## 「今の学生に向けてアドバイスを お願いします！」

ダラダラ過ごしていると大学生活はあつという間に終わっちゃうので、なんでもいいので、一生懸命何かに取り組んで毎日を生きてください。人それぞれやりたいことは違うから、内容は何でもいいです。ただし、真剣にやってください。一生懸命やったことと、そこで築いた人間関係は、何歳になつても自分の宝物です。数多くの浅い関係よりも、深い関係を築けていると双方が思える仲間を少しでも作っておくことは、大事なことだと思います。今でも関係が深い友達とは、結婚式に呼んだりして交流が続いている

ので。

また、将来になりたい職種が決まっている人は、どんな企業が開催しているインターシップなどに行くのがいいと思います。インターシップでは、学生同士でディベートする機会があります。そこで自分以外の学生の「人となり」をみたりすると、同じ業界や企業を目指す学生のレベルが、おぼろげながらわかります。これは非常に重要なこと。就職は絶対基準で決まるものではなく、相対基準で決まるものだから、自分がどんなに優秀だと自分では思っている、自分より優秀な人がいればそちに内定が出ます。だから、インターシップなどに行くことでまわりのレベルを知ることが、非常に意味があると思います。他にも、職場の雰囲気をつかむために、直接社員に質問ができる機会もあつたりするので、興味がある人にはぜひ参加をお奨めします。

## 「将来のビジョンを教えてください！」

会社の中で言うなら、コンサルティングを交えて融資を行うというのを極めたいですね。コンサルティングとは財務・法律・生産管理等の側面から、実践的な手法を用いて、会社毎に抱えている経営課題を解決するアドバイスを行うこと、と私は考えています。今のままでは融資に踏み切れないというような企業を、課題を解決することにより、融資のできる企業になってもらった上で融資を行う、そんな事例を数多くやってみたいのです。

2 年程前、中小企業診断士の資格を取ったのですが、資格を取ったというだけでは、経営課題解決における複雑なケースには、十分対応できるとはとても思えません。診断士に必要とされる知識をベースに、会社の業務以外の時間を利用して、更に勉強をかさねて知識吸収を

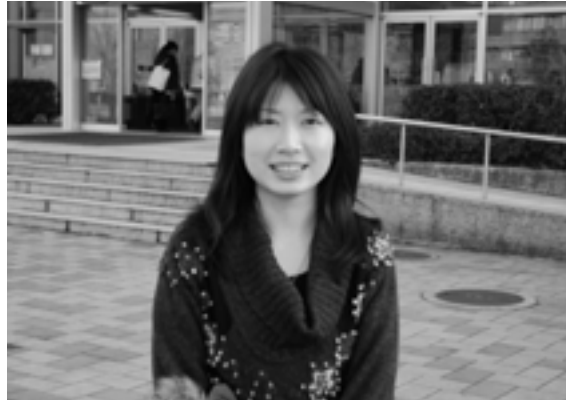
行いたいと思っています。そして、机上での学びを現場で実践することで、はじめて身につくと思います。複雑なケースを一事例やった人、二事例やった人、一回もやったことのない人では、経験の差が全然違います。複雑なケースに携われる機会を会社からもらえるように、まずは日々の仕事をちゃんとやっておく、っていうのがやっぱり大事になってきますね。

今後も、様々な勉強は続けるでしょうが、今は、何か特定の資格を取ろうという気持ちはありません。しかし、金融の仕事をしていく上で会計の知識は、ないよりあったほうが断然いいので、独学で学ぶことはあると思います。例えば公認会計士だとか、来年新設される財務会計士といったライセンス取得のために、試験対策内容を学ぶような形になるかもしれませんが、ただ資格取得を目標にするのではなく、その資格勉強を生かして、

どこからどこまで自分がちゃんと実務に使えるか、というのを常に意識することが大事だと思っています。

【担当】 22 生 井上 知紀

## OG紹介



広島県教育委員会 教育部 スポーツ振興課  
下 久仁枝 さん  
(平成17年度学部入学)

「お仕事について教えてください。」

スポーツ振興課では、競技団体等と連携をしながら、広島県のスポーツの振興に携わっています。また、公立の小中高等学校の体育に関することをしています。他にも、県民の体力向上に関する調査をする仕事もあります。私の所属する係ではグリーンアリーナや広島スタジアムといった施設を所管とし、その管理運営等に関するを行っています。

す。私の仕事自体は、まだこの課に就いて2年目ということもあり、文書の振り分けや出入金などの会計処理、物品管理といった、一般的に庶務と呼ばれるものが多いですね。上司は皆さんとってもやさしくて、仲良く飲みにいたりして、和気あいあいとしています。

「その仕事を選んだ理由を教えてください。」

第一に、私は広島出身なので、広島にずっといたいという思いがありました。地域ごとに採用をする役所なら、転勤で県外に行くこともないと思い、また親も広島に残ることを望んでいたので、公務員を選びました。生協の公務員講座で勉強をしていて、国家一種や二種、広大事務員なども受けたのですが、最終的に県庁に決めました。どうして県庁にしたのかというと、私は総合科学部で勉強するうちに、一つの専門にとらわれない考え方を強みにできる仕事をしたいと考えたようになりました。それが第二の理由です。広島県職では2〜3年おきに課や部署を越えた異動があって、将来、教育

委員会に行くかもしれないし、県立学校の事務に行くかもしれないし、知事部局に行くかもしれない。いろんなところに異動して、その部署の仕事をこなさないといけないわけですが、そうした時にこの考え方が活かせると思いました。自然環境に興味があり、それが勉強できる総合科学部に入り、そっちの仕事もできたら楽しいだろうな、と思いました。さすがに大企業の理系に通用する勉強を、自分の中で出来ませんでした。ですが、大学で幅広く勉強した分、他の分野と結びつけて環境政策といった仕事に将来関わられるのもいいなと思って、納得して県庁にしました。最初は環境系を志望していたわけですが、親が小学校の先生ということもあって、教育委員会の方も決して興味がなかったわけではありません。むしろここに入ったからこそ、どんな分野でも経験したい、という気持ちを今は持つようになりました。

「公務員試験に備えて今からできる準備はありますか。」

一次試験の筆記で受からないとどうに

もならないので、勉強は必要です。一年生の時からしっかりやれとは思いませんが、大学入試でやったような問題も出るので、覚えておくのとあの勉強が楽です。法律や経済、時事問題などは最初から勉強しないといけなかったので大変でしたが、もともと興味があつたら勉強は楽だと思います。そして二次試験は面接など人柄をみる試験なので、自分はこれがんばりました、といったことがあつた方がいいと思います。例えばサークルやバイトで、自分はこんな経験をしてこんな成長ができました、ということですが、また、総合科学部であることが不利になることはないと思います。試験をクリアしてしまえば、あとの面接などではもう、経験や人間性になると思うので。逆に私は総合科学部であることを強みにしようと思つたから、いろんなことを幅広くやってきたので、公務員になつても私はいろんなことができます、ということにつなげられたかな、と思います。試験内容が仕事に関係があるのか、と思う人もいます（私も思つたことがあります）。大いにあると思います。法律に基づいて仕事をしているので、何か

をするときに絶対に根拠が求められます。何をする時でも、〇〇規則第〇条に基づき・・・といったように。自分の仕事内容も広島県の条例や規則に基づいているので、法律を勉強しないままだったらその感覚がないままだから、しんどかつたんじゃないかなと思います。また法律を直接取り扱う部署もあるし、今の職場でも法律等に根拠を探しながら仕事をしています。といっても私の仕事は前例のあるルーティンな仕事が多いので、前年のものを見ればよく、一から探すのは少ないですが。また、人を説得するために根拠が必要です。上司に説明するとき、自分はこうだと思ひます、だけでは伝わりません。一年目は特に「根拠は？」と何度も聞かれました。だから、試験は感覚を養うのに少しは意味があつたかなと思います。他に財政をやる部署もあるので、経済を知つとかなんといかない人もいますし、教養は一般常識というか、そういう答えを導くためのプロセスが役に立っている実感しています。試験のために勉強するということが、仕事のために勉強するという姿勢を身につけるからです。試験勉強の内容を「こんな

の仕事と関係ないじゃん」と思つていたらしんどいだけだなと思うので、なんとかプラスに考えたくて、何かの役に立つと思ひたくて。当然あの勉強をやつていなかったら今の仕事もしていいないので、あの勉強が無駄だったとは思ひません。

### 「総合科学部でよかったこと」を教えてください。」

いろんなことができたことです（笑）。他の学部より自分の時間がいっぱいもてたと思うので、やろうと思ひえば専門的な勉強もできたし、そればかりじゃなく他のこともできた。私は大学の授業外で公務員の勉強をしていたので、その時間が取りやすかつたです。公務員になろうと思つたときに経済学部や法学部の授業を受けたことがなくて、公務員の勉強を始めてからすぐ後悔しましたが、時間が多く取れたので負担に感じませんでした。あとは、友達にいろんな価値観を持つている人がいて、総合科学部にプログラムがたくさんある分、文系もいれば理系もいて考え方がいろいろあつたので、それがおもしろかつたです。



## 「学生生活について教えてください。」

私はテニスサークルに入っていて、おそらくサークルが半分以上を占めていたと思います。一年生の時すぐに入部し、授業とサークルとバイト、という生活でした。サークルが週3、4くらいだったので、夜は先輩たちとご飯、というように一年生のときは楽しく過ごしていました(笑)。二年生の途中から公務員の勉強を始めたから、バイトを減らしましたが、サークルの方は二年の8月から三年の夏まで幹部だったので、その間は毎日テニスをしていました。授業に出て、終わったらテニスをして、たまにバイト。でもいろいろ両立できなくなってきて、バイトを辞めてから1年間はテニスをずっとしていたり、そうやってサークルの仲間と一緒に頑張ったりしていました。幹部が終わってから、サークルの友達と就職活動や勉強のことで励ましかったりして、それらがすべて終わったから卒業までみんなで鍋をしたり旅行をしたり、とにかく友達と楽しんだ学生生活でした。サークル以外にも、学部や公務員講座で知り合った友達もいて、やはり

友達がたくさんできたことが自分の中で大きいです。受験勉強に関して言えば、サークルと両立してやっていました。三年になったら授業も少なかったもので、空いた時間はテニスか勉強をしていて、幹部の時はほとんどテニスだったと思うけど(笑)。でもテニスが終わってから、さすがにやばいと思い、まじめに勉強を始めました。でも、私は理系ということもあり数学などが得意だったので、そういうのは効率よく勉強しようと思って、授業に行かず自分で問題解くだけ解く、ということをしていました。法律や経済は習わないとわからないので、たまった授業DVDを順番に朝から晩まで見るという、かなり大変な生活をしていました。中央図書館や西図書館にそれこそ朝から行って、友達と待ち合わせして、朝10時から夜10時までずっとやっていました。それだけやらないと受からなかったか、つて言うかわかりませんが、不安だったので。友達と図書館で待ち合わせたと言いましたが、これは勉強を継続するためでした。友達と集合時間を決めておいて、少し勉強したらお昼ごはんを食堂に食べに行くんだけど、行かなかったら一

人で食べないといけなくなる。お互いそうなってしまうから、申し訳ないし遅刻したことに對しても悔しい気持ちも生まれるよね。また、ずっと勉強していたらストレスがたまるから、お昼の休憩は食堂で一時間とって、3時にも少し外に出てリラックスしたり、しゃべったり。友達と楽しく話しながら勉強するんじゃないかと、休憩をいっしょにするために、お互いがお互いをうまく利用していたととれますね(笑)。一緒に勉強していた友達は関西の人だったから、同じところを受けませんでした。もし完全にライバルだったら、一緒に勉強できたかどうかわかりません。広島県庁は十人しか採用がなかったもので、周りでは一人入るかどうかという倍率だったからです。全然違う県庁を受けるからこそ、それぞれの目標をもって勉強しているという適度な関係が保てて、また得意分野も全然違っておかげで、褒めあったり教え合ったりできました。たとえば私は理系だったから数学や経済が得意で、一方その友達は法律とかの文系科目が得意だから、テスト結果をみせあっても素直にほめていました。良い意味でプレッシャーになった

し、またマイペースにもできました。朝遅刻した分を取り戻すために、より集中して勉強しようと思えたのです。ニュースなどの情報共有をしたり、出題予想もしたりしました。さらに、就活している人の話も聞きました。就活する人はそれに合わせた勉強をして、また面接官とも話をするので社会を一回見ているので、そういう人たちの話は結構聞きました。おそらく就活している人同士だったらお互いの結果を気にするだろうけど、自分は公務員試験の勉強中、ということと職種が全然違うということもあり、就職先が決まっていなかった友達も自分にはそういう話をしてくれたのかな、と思います。周りに内定が決まった人やまだの人など色々いる中で、社会にどんな人がいるのか、またどんな面接だったかを知ることができたので、それらはその都度自分のものにしてようと思いました。自分の面接の時にも使えるかも知れない、と思ったからです。他人の話や経験を自分に活かすことも大事だと思います。

### 「今の学生に向けてメッセージをお願いします。」

楽しく過ごしたらいいと思います。勉強したいと思えば勉強すればいいし、バイトしたいと思えばバイトすればいいし、遊びたいと思えば遊べばいい。でも、留年はしないほうがいいと思います（笑）。好きなことができるのも大学生のうちだけだと思います。私の周りには、大学が一番楽しかったという人が多い気がします。私は高校まで田舎にいたので、勉強と部活からいしかすることがありませんでした。大学に入ってから友達とたくさん遊んで楽しかったし、今遠くに離れてもたまに会っているので、友達を大事にして楽しく過ごしたらいいと思います。

### 「将来のビジョンを教えてください。」

向上心がないと思われるかもしれないけど（笑）、上の役職に立ちたいという考えは今ではなくて、まだ一つ目の部署だから、いろいろなところを転々とさせてもらって、自分のしたいことを探していきたいと思います。最初は環境系を志望

していたと言ったけど、今は教育委員会を楽しんでいるので、このように日々楽しく仕事をしていきたいなと思います。仕事に余裕があるときは自分のことで楽しんで、仕事が忙しいときは仕事を一生懸命やって、公務員は、時期によっては時間に余裕がある場合もあるので、仕事と自分の生活を両方充実させたいと思っています。



【担当】 21生 林田 啓蒼

21生 久住 忠彦

22生 井上 知紀

22生 恩田 怜